

【趣旨】全国体験活動指導者認定委員会が制定した「自然体験活動指導者養成カリキュラム」に則り、自然体験活動指導者を養成することにより、青少年向け自然体験活動プログラムにおいて、子どもの発達段階に応じて適切かつ安全に指導ができる自然体験活動指導者を育成する。

【主催】国立淡路青少年交流の家

【共催】神戸市立自然の家

【後援】兵庫県教育委員会、神戸市教育委員会

【日時】平成29年8月30日（水）～9月1日（金） <2泊3日>

【会場】神戸市立自然の家（神戸市灘区六甲山町中一里山1-1）

【参加者数】41名（定員30名）

【講師】西村 典芳 氏（神戸山手大学 教授）

高見 和至 氏（神戸大学 教授）

三浦 正純 氏（神戸市立自然の家 所長）

大本 晋也（国立淡路青少年交流の家 所長）

片山 貞実（国立淡路青少年交流の家 次長）

## 【プログラム内容】

### 8月30日（水）

#### <ガイダンス>

自然体験活動指導者認定制度の仕組みや社会的な役割を説明した。

#### <青少年教育の体験活動>

現代の青少年の課題や体験を通して育んでもらいたい力、必要な体験活動について、ワークショップ形式で考え、お互いに発表し合った。

#### <自然体験活動の技術①>

アイスブレイクや野外炊飯を体験しながら、自然体験活動の指導に必要な技術やポイントを学んだ。

#### <対象者理解>

心や身体の発達段階を理解した上で指導することの大切さや、コミュニケーションの基本となる声掛けの重要性を学んだ。



### 8月31日（木）

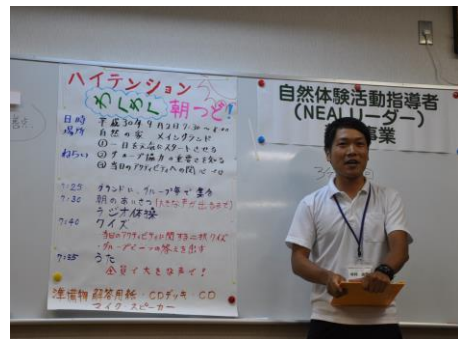
#### <自然体験活動の安全管理>

安全管理の基礎や自然体験活動におけるリスクの発見方法を、講義やリスクマネジメントゲームを通して学んだ。講義の後半は、身近な物を使った応急処置の実習を行い、臨機応変な対応について考えた。

### <自然体験活動の特質、自然体験活動の技術②・③>

自然体験活動の歴史や種類・効果、自然体験のプログラムやアクティビティの特質について学んだ後、これまでの2日間の講義・実習で学んだことを活かし、実際に小学校からアクティビティ作成及び指導を依頼されたという想定で、与件をもとにアクティビティをプランニングした。

完成したアクティビティは参加者の前でプレゼンし、講師や参加者からもらったフィードバックをもとにブラッシュアップを行った。



9月1日（金）

### <自然体験活動の指導、自然体験活動の技術④>

参加者を小学生に見立て、グループ毎に考えたアクティビティを実演した。終了後は講師から、指導者として必要な心構えや安全管理、指導のポイントを説明していただいた。

### <講習まとめ・認定試験>

3日間のまとめを行い、自然体験活動指導者の認定試験を行った。



### 【参加者の声】

- 声掛けの重要性を学べた。
- 身体と心の発達を考えた指導をしていきたい。
- 演習が多く実践的な内容を学べた。
- 講師から細やかなアドバイス・指導をいただくことができた。
- 学びの濃い3日間になった。

### 【まとめ】

3日間の講義や演習を通して、自然体験活動の指導者として必要な役割や知識、技術を学ぶことができた。同時に、予定を上回る多くの方々にご参加いただけたこともあり、青少年教育施設や企業、学生等、様々な業種や世代間で交流することができ、参加者同士のつながりを広げることができた。

今後は、自然体験活動指導者として活躍する場や、次の自然体験活動上級指導者（NEAL インストラクター）につながる演習の機会を近畿地区の施設と連携しながら提供していきたい。